

2015年3月、シーギリヤロックを訪ねてその壮大さに驚いた。緑と対照的な赤褐色の岩肌は、空に向かって切り立っている。「あれ？」スリランカにもマチュピチュのような世界が存在したのかと思った。

25年前、初めて上った岩山の洞窟壁に描かれたシーギリヤ・レディの画面に触れた日も、「あら？北インドで見た壁画も同じ構図だったっけ…」と思い起こした。地域的に見て、経済や文化の交流があったことが窺える。昔は500体ものフレスコ画が描かれていたというが、今では18体位しか残っていない。



シーギリヤロック空撮 (シンハラ語版ウィキペディアより)



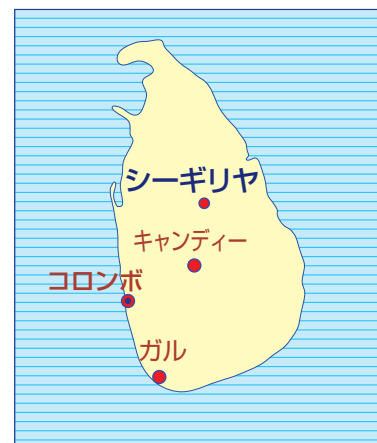
王のプール 王が沐浴していたといわれる、シーギリヤロック頂上につくられたプールの跡。

シーギリヤの物語は、異母兄弟の王位の奪い合いであり、所詮、それは人間の我欲と孤独との戦いである。時代は5世紀後半、僅か11年間の宮中宮殿の生活には仏教の因果応報の教えを見ることができる。

### 👑シーギリヤの悲劇

スリランカ史を繙くと、紀元477年ダートゥセーナ王の長男・カーシャパが王位を奪い父を殺害。478年、カーシャパ王がシーギリヤに遷都し宮殿建立。495年、カーシャパ王の弟モッガラナーの侵攻でシーギリヤは陥落する。その後、モッガラナーは、シーギリヤの王宮を仏教僧に寄進し、元の都・アヌラーダブラに首都を戻したとある。

スリランカの遺跡として世界遺産に登録されていることもさることながら、人を惹きつけるのは上記の悲劇が背景にあることだと思う。このシーギリヤロックは、古代には仏教僧たちの修業



ミラー・ウォール シーギリヤ・レディの下の人工の壁。ピカピカに磨かれ鏡のように人の姿が映ったといわれる。

道場であった。

重複するが、スリランカに伝えられる物語に触れる。実父・ダートゥセーナ王は、アヌラーダブラを統治していた。幾度となくタミル人の侵略を平定し、広大な貯水池を建造するなど聡明な王であった。この王と平民の側室との間にできた長男がカーシャパであり、弟の母親は王族の血筋を引く正室であった。それ故に、カーシャパは王位を弟に奪われることを非常に恐れ、実父を監禁し王位を剥奪した。財産を全て要求したが断られた。怒りに狂ったカーシャパは実父を殺害した。弟はインドに亡命した。しかし、難を免れた弟からの報復を恐れ、カーシャパはアヌラーダブラからシーギリヤに都を移し、岩山に要塞のような王宮を築いた。しかし、父の死後、18年目に、インドに亡命していた弟が兵を率いてシーギリヤに攻め入り、兄を追い詰めた。カーシャパは自害しその人生を終えた。

この宮殿建立は、7年もの年月を要したと伝えられているのに実に短命の王都であった。石で作られた王座は立派であったが、そこに座しながら、いつ、弟が攻めてくるのかと襲来を怖れていたのかもしれない。人間の欲望は限りなく、形を変えて今日でも繰り返される。仏の教え「因果応報」は理にかなったことだと思う。人間、道に外れた行いは慎むべきであると、シーギリヤの悲劇は語りかけている。

### シーギリヤ・レディ

スリランカを訪れる人々で、このシーギリヤ・レディを観たいと思う人が少なくない。私は期待を大にして、25年前に必死で850段を上った。下を見ると落ちそうで怖い気持であったけれど、やっとの思いで壁画と対面した。ガイドブックでは、明るい色彩であったのに、実際にはほとんど色あせて見えた。雨嵐に吹きさらされたためであろうか、断崖絶壁の中腹の頂上寄りにあった

が、長い階段を一段一段苦勞して上ってきた達成感があった。

カーシャパ王の後宮の女性たち…王妃、王女、侍女、側室らしい黄金色に輝く女性は、それぞれに違った花籠に華を載せたり、華びらを手にしたり、華を運んだりしている。その女性たちの宝飾、衣装、髪型、豊満なバストや細いウエスト、妖艶な目と唇…これらは、王の目を楽しませたり、王に迎えられるのを待っているのであろうか。

華は、インドの風俗として身体を飾る生花であったのが転じ、それを仏前に供えた。これを外して手で撒いたのが散華供養である。華びらを撒くのは仏様をお迎えするときの行である。王は女性と仏に心の癒しを求めていたのではないだろうか。或いは実父を殺害したの罪の意識から実父への鎮魂歌としたかったのであろうか。

### シーギリヤの謎

シーギリヤの空中宮殿は、角度を変えれば要塞王国である。1500年前にカーシャパ王によって造られた稀有な建築物である。200mもある高さの岩山に、誰も登って来られないような設計を考案した。あちらこちらにその仕掛けや怪しげな工夫もされ、一見何も無いようなところに落とし穴があったりする。 タランガッレソーマシリ師



シーギリヤ・レディ シーギリヤロックの壁面に描かれた女性のフレスコ画の内一枚。かつては500人にも及ぶ女性が描かれていたと言われているが今は18体のみになった。描かれた女性たちが手にしている花は散華供養のための蓮華の花であろうか。

は「1853年に英国人が岩山の発掘作業していた2人がここを発見したんだよ。20世紀後半から世界に知れ渡るようになり観光に来る人が殺到するようになった。ジャングルに眠っていた宮殿からは5世紀のスリランカ美術と建築の集大成だといわれるほど、高いレベルのものが発見されたんだ」といわれた。

私が知っているだけでも、シーギリヤロックの麓には広い庭園があって噴水のように循環する小川や上下水道もあった。

その庭園を取り囲んで蓮の水路が造られ、ヘビ、ワニが住んでいて、そこに落ちれば人は戻って来なかったと聞いた。

頂上の沐浴場、見張り台跡などからは建築



ライオンの足と階段 シーギリヤロック頂上直下にある。ここから鉄製の急な階段を登って頂上に至る。

技術の高さが窺える。15000m<sup>2</sup>もあるという広い土地に王宮、妃たちの部屋その他、ダンスホールまで備わっていた。当時、それらを完成させた技術は、現在の専門家の研究対象となっている。

シーギリヤロックを登る途中の、ミラー・ウォール(鏡の回廊)と呼ばれる岩壁に書かれた685点の興亡物語の中の、詩文の一つをソーマシリ師が訳して下さい。

「黄金の宮殿 あの豪華な広間 贅沢に造られた調度類を並べ この荘

厳なる中庭 あの空に面した壁 全ては空行く霧のように消えていった」

※写真(「シーギリヤロック空撮」を除く)はGoogle社のPanoramio(パノラミオ)から転載。